

閣龍（コロンブス）世界博覧会 （万国博覧会）



*毛利家文庫 58絵図1148「閣竜世界博覧会之図」

解説

万国博覧会は1851（嘉永4）年、ロンドンではじめて開催され、その後、西ヨーロッパ各国でたびたび開かれました。万博には、最先端の工業製品をはじめ、諸外国の物産が出品されたことから、万博は「西洋各国の物産に触れ、機械技術を伝習する場」、また「日本製品を紹介し、諸外国へ売り込む場」と認識され、日本も積極的に参加しました。

1893（明治26）年のシカゴ万博（閣龍世界博覧会）は、コロンブスの大陸到達400年を記念して開催され、市内と会場を結ぶ高架鉄道や大観覧車が観客を喜ばせました。日本も平安時代から江戸時代の建築様式をミックスさせた日本館（鳳凰殿）を建設した他、工芸館、農業館、運輸館など多くのパビリオンに出品しました。

「婦人館」への出品も好評で、「日本婦人書斎及び居間付属家具装備品」と「日本婦人ノ服装・楽器」が「日本婦人ノ優美典雅ナル生活状況ヲ視知セシムル」ものと評価され、また美術品としての価値も高かったため、博覧会事務局から賞状とメダルが授与されました。写真はそのメダルです。あて名が「Princess Mori（プリンセス・モウリ）」になっていますが、これは旧藩主毛利元徳の妻、毛利安子のことで、彼女が閣龍世界博覧会日本婦人委員会委員長として、出品に尽力したことによるものでした。

*梶山家文書1942「臨時博覧会事務局報告」・同1950「臨時博覧会事務局報告附属図」はシカゴ万博の報告書で、会場図や各パビリオンの写真などを収録しています。